

25. 花き類・観葉植物

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	希釈倍数	魚 毒	蚕 毒	備考
M4	オーソサイド水和剤80	苗立枯病	散布	-	8回以内	600倍	C		花き類・観葉植物（ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、シネリア、スイビ [®] 、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマト [®] コロを除く）
	(ダゾメット) ガスタード微粒剤	萎凋病	本剤の所定量を一に散布して土壌と混和する	は種又は植付前	1回	20 30kg/10a	A		花き類・観葉植物
		球根腐敗病							
根頭がんしゅ									
首腐病									
白絹病									
半身萎凋病									
	バスアミド微粒剤	萎凋病	本剤の所定量を一に散布して土壌と混和する	は種又は植付前	1回	20 30kg/10a	A		花き類・観葉植物
		球根腐敗病							
		根頭がんしゅ							
		首腐病							
		白絹病							
		半身萎凋病							
立枯病									
NC	カリグリーン	うどんこ病	散布	発病初期	-	800倍	A		花き類・観葉植物（きくを除く）
10+1	ゲッター水和剤	灰色かび病	散布	-	5回以内	1000倍	A		花き類・観葉植物（ひまわり、ゼラニウムを除く）
M1	サンヨール	うどんこ病	散布	発生初期	8回以内	500倍	B		花き類・観葉植物（きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、ハンジ [®] を除く）
		灰色かび病							
12	セイビアーフロアブル20	灰色かび病	散布	発病前～発病初期	4回以内	1000倍	B		花き類・観葉植物（きんせんか、オイトレースフラワーを除く）
1	トップジンM水和剤	菌核病	散布	-	5回以内	1500倍	A		花き類・観葉植物（トルコギキョウを除く）
	ドロクロール	萎凋病(フザリウム菌)	土壌くん蒸	-	2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内)	<床土・堆肥>1穴あたり3~6ミリリットル<圃場>1穴あたり2~3ミリリットル	C		花き類・観葉植物
		青枯病							
		半身萎凋病							
U6+3	パンチョTF顆粒水和剤	うどんこ病	散布	-	2回以内	2000倍	B		花き類・観葉植物
9	フルピカフロアブル	灰色かび病	散布	発病初期	5回以内	2000～3000倍	B		花き類・観葉植物（ばら、スターチス、宿根かずみそう、ゆり、りんどうを除く）
M3+1	ホームイ水和剤	フザリウム・リゾクトニア菌による病害(苗立枯病等)	種子処理機による種子粉衣	は種前	1回	種子重量の1.0%	C		花き類
19	ポリオキシシンAL水溶剤	うどんこ病	散布	発病初期	8回以内	2500倍	A		花き類・観葉植物
		灰色かび病							
		黒斑病							
M7+19	ポリベリン水和剤	灰色かび病	散布	発病初期	8回以内	1000倍	A		花き類・観葉植物（ストック、スターチス、チュリップ、ばら、カルマ、きくを除く）

FRAC コード	薬剤名	病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	希釈倍数	魚 毒	蚕 毒	備考
M10	モレスタン水和剤	うどんこ病	散布	発病初期	10回以内	2000～3000倍	B		花き類・観葉植物 (カーネーションを除く)
7	モンカットフロアブル40	白絹病	株元散布	-	3回以内	1000～2000倍	B	注意	花き類・観葉植物
11+4	ユニフォーム粒剤	立枯病 (リゾクトニア菌)	土壌表面 散布	定植時又 は生育期	3回以内	18kg/10a	B		花き類・観葉植物
14	リゾレックス粉剤	立枯病	土壌混和	定植前	1回	50kg/10a	A		花き類・観葉植物
	リゾレックス水和剤	株腐病	土壌灌注	生育期	5回以内	500～1000倍	A		花き類・観葉植物
14	リゾレックス水和剤	茎腐病	土壌灌注	生育期	5回以内	500～1000倍	A		花き類・観葉植物
	リゾレックス水和剤	立枯病							

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	希釈倍数	魚 毒	蚕 毒	備考
4	アクタラ粒剤5	アブラムシ類	株元散布	生育期	1回	6kg/10a	A	注意	花き類・観葉植物
	アクタラ顆粒水溶剤	ハモグリバエ類 ミカンキロアザミウマ	散布	発生初期	6回以内	2000倍 1000倍	A	注意	花き類・観葉植物 (宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く)
3	アディオオン乳剤	ヨウムシ類	散布	発生初期	6回以内	2000倍	C	注意	花き類・観葉植物 (はばたんを除く) 指定農薬
4	アドマイヤーフロアブル	アブラムシ類	散布	発生初期	5回以内	2000倍	A	注意	花き類・観葉植物 (きくを除く)
6	アフーム乳剤	ハモグリバエ類	散布	発生初期	5回以内	1000倍	C	注意	花き類・観葉植物
		アザミウマ類				2000倍			
		ヨウムシ類				1000倍			
1	オルトラン粒剤	アザミウマ類 アブラムシ類	株元散布	発生初期	5回以内	3～6kg/10a	A		花き類・観葉植物 (きく、宿根アスター、 カーネーション、アリウム、 たであいを除く)
		ヨウムシ類				6kg/10a			
1	オルトラン水和剤	アザミウマ類 アブラムシ類 ヨウムシ類	散布	発生初期	5回以内	1000～1500倍 1000倍			花き類・観葉植物
1	オンコル粒剤5	アザミウマ類	株元散布	生育期	3回以内	6kg/10a	B s		花き類・観葉植物 (きく、ストックを除く)
13	コテツフロアブル	ハダニ類	散布	発生初期	2回以内	2000倍	C		花き類・観葉植物 (きく、ストックを除く)
		ヨウムシ類							
9	チェス顆粒水和剤	アブラムシ類 コナジラミ類	散布	発生初期	4回以内	5000倍	A		花き類・観葉植物
12	テデオオン水和剤	ハダニ類	散布	発生初期	10回以内	500～1000倍	A		花き類・観葉植物
10	ニッソラン水和剤	ハダニ類	散布	-	2回以内	2000～3000倍	B		花き類・観葉植物
15	ノーモルト乳剤	ヨウムシ類	散布	発生初期	2回以内	2000倍	B	注意	花き類・観葉植物 指定農薬
10	バロックフロアブル	ハダニ類	散布	発生初期	1回	2000倍	A	注意	花き類・観葉植物 指定農薬
21	ピラニカEW	ハダニ類	散布	発生初期	1回	2000倍	C		花き類・観葉植物 (カーネーション、きくを除く)
4	ブルースカイ粒剤	アブラムシ類	植穴土壌 混和	定植時	1回	2g/株	A		花き類・観葉植物
			株元散布	生育期	5回以内				
4	ベストガード水溶剤	コナジラミ類	散布	発生初期	4回以内	1000倍	A	注意	花き類・観葉植物 (ばら、きくを除く)
	ベストガード粒剤	アブラムシ類	生育期 株元散布	発生初期	4回以内	1～2g/株			花き類・観葉植物 (きく、きんせんかを除く)
1	マラソン乳剤	アブラムシ類	散布	発生初期	6回以内	2000～3000倍	B		花き類・観葉植物

IRAC コード	薬剤名	病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	希釈倍数	魚 毒	蚕 毒	備考
4	モスピラン顆粒水 溶剤	アブラムシ類	散布	発生初期	5回以内	2000～4000 倍	A	注意	花き類・観葉植物 (ストック、りんどう を除く)
7	ラノータープ	コナジラミ類	作物体の 付近に設 置する	栽培期間 中	1回	50平方メー トル/10a	B	注意	花き類・観葉植物 (施設栽培)
3	ロディー乳剤	アブラムシ類	散布	-	6回以内	1000倍	C	注意	花き類・観葉植物 指定農薬
-	粘着くん液剤	ハダニ類	散布	発生初期	-	100倍	A		花き類・観葉植物

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 薬害は、すべての品目に確認できていないので使用に際しては十分留意する。